

特徴1: 大都市周辺部で急速に展開する超高齢化に対応するため、豊四季台団地を中心とした産学官連携のプロジェクトを展開。

特徴2: 集合住宅の建て替えを契機とした複合プロジェクトとして、在宅医療・介護の仕組みと高齢者の自立を目指した就労支援の取組みを地域包括ケアシステムとして構築。

■基本情報■

- ・ 柏市は都心から約30キロ離れたベッドタウンとして発展し、人口約40万人、高齢化率21.9%。
- ・ 本取組みが展開されている豊四季台団地では高齢化率がすでに40%を越えている。柏市における課題先進地域。
- ・ 今後、団地に住む高齢者の心身の状態が悪化すると、団地内にすみ続けることが困難になることが予想される。
- ・ 急増する高齢者を地域で支える仕組みとして、①在宅医療・介護システム、②住まいと24時間対応の在宅医療・介護を組み合わせたモデル拠点、③高齢者の生きがい就労システムの構築を、自治体、大学、ディベロッパーの三者で目指している。

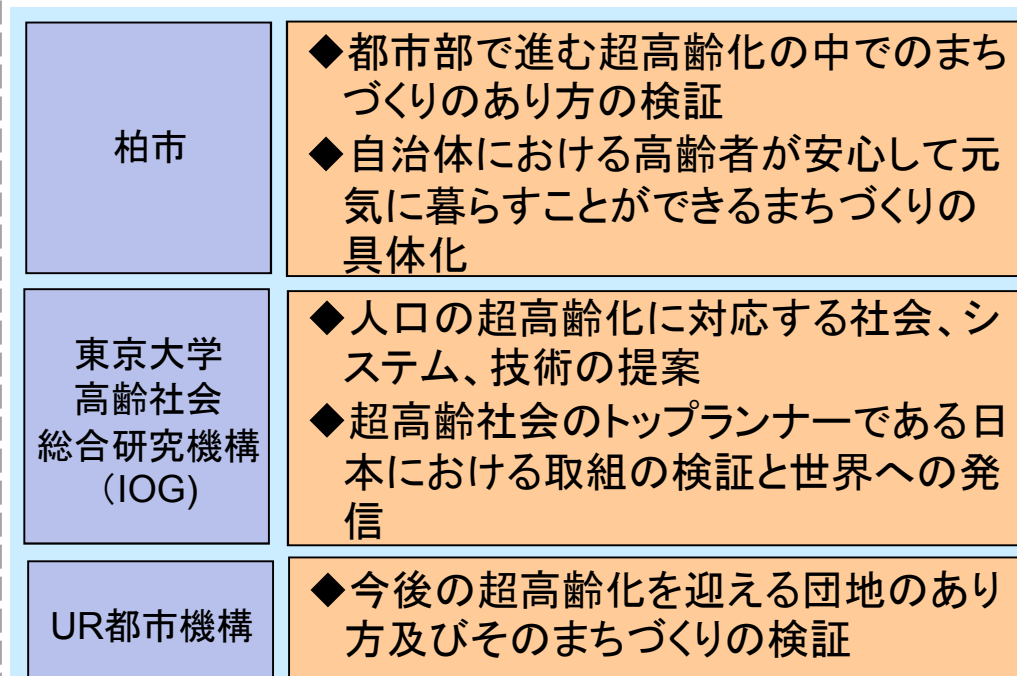


左) 建替えの進む豊四季台団地



右) 実験的に進められている野菜工場
撮影) 調査団

図: 柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会



◆三者による研究会を発足(2009年6月)。
市民シンポジウム経て、2010年5月に三者協定を締結。

出所) 柏市福祉政策室「柏市における長寿社会のまちづくり」を基に事務局作成。

千葉県柏市の好事例

■在宅医療・介護の推進

市町村と医師会が連携し、在宅医療の推進と医療・介護連携体制の構築

- ・在宅における継続的な生活を実現するためには、「治す」医療から「支える」医療への転換が必要との認識から、市町村と医師会が連携。
- ・市町村と医師会が中心となり、地域の各専門職が「顔の見える関係」をつくるための各種連携会議を実施。
- ・在宅医療従事者の負担を軽減するため主治医・副主治医制によるバックアップ体制を地域内に構築。
- ・在宅医療研修の実施により、在宅医療に従事する専門職の増加。
- ・情報共有システムを構築し、連携を強化。
- ・在宅医療に関する市民啓発の実施。
- ・豊四季台団地内に「地域医療拠点」を設置。

■住まいと在宅医療・介護のモデル拠点

高齢者向けの住まいと24時間対応の在宅医療・介護を組み合わせたモデル拠点の構築

- ・豊四季台団地に新設されるサービス付き高齢者住宅（自立棟・介護棟）に、24時間対応の在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、定期巡回・随時対応型訪問介護看護等の各種サービスを併設予定。
- ・これらの訪問サービスは、サービス付き高齢者向け住宅の居住者だけでなく、地域の高齢者にサービスを提供。

■生きがい就労

高齢者の健康維持と地域課題の解決の両方に寄与する「生きがい就労」の創生。

- ・高齢者を（自然に）外に引き出す工夫、地域の担い手として活躍できる環境整備の必要性からセカンドライフ就労として「生きがい就労」事業を実施。
- ・従来の高齢者就労とは異なり、経験や技能、知識を生かした「ゆるやかな」働き方を志向。
- ・自治体は、民間事業者や地域高齢者の啓発及びコーディネートを担い、各民間事業者が高齢者を直接雇用する。
- ・主な事業：休耕地を利用した都市型農業事業／団地敷地内を利用した植物栽培ユニット事業／建て替え後リニューアル団地における屋上農園事業／コミュニティ食堂／学童保育事業／保育・子育て支援事業／生活支援・生活充実事業／福祉サービス事業。

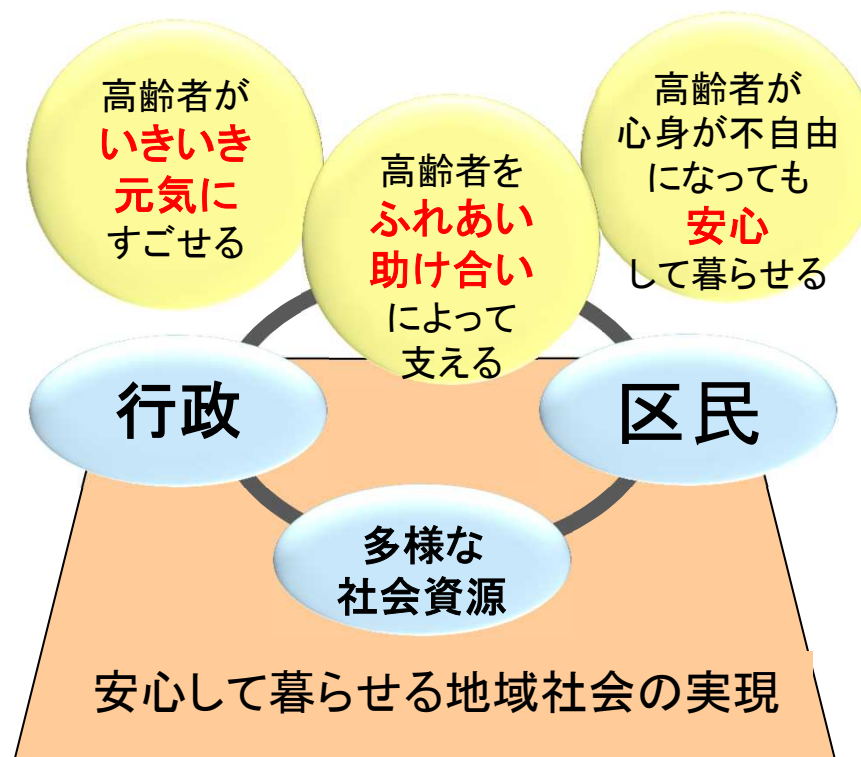
東京都品川区の状況と取組み

- 特徴1: 要介護高齢者と家族が、在宅サービスを活用しながら、できるかぎり住み慣れた自宅や地域での生活を継続できるよう支援することを基本としている。
- 特徴2: 地域のさまざまな資源(町会・自治会、高齢者クラブ、社会福祉協議会、介護サービス事業者、NPO、ボランティアなど)との協働による地域で支えるしくみづくりを推進している。

■ 基本情報 ■

- 人口は: 36万8,400人(2013年10月)
- 高齢化率: 20.55%(同上)
- 高齢者の単独世帯の割合が高い(38.1%: 2010年、全国平均24.8%)
- 品川区の先進的取組み
 - ✓ 在宅介護支援システムの運用
(在宅要介護者の8割を在宅介護支援センター(20か所)が担当)
 - ✓ 認知症高齢者のケアの拡充
 - ✓ 社会福祉協議会と連携した成年後見制度活用や市民後見人養成
(高齢者権利擁護のしくみづくり)
 - ✓ 福祉カレッジの運営・NPOとの協働による福祉人材の確保・育成
 - ✓ 孤立死防止など地域での見守り・支えあい活動の支援としくみづくり

図: 品川区の高齢者支援の基本目標



出所) 品川区(2010)「第五期品川区介護保険事業計画 いきいき計画 21」
p.4.より作成。

東京都品川区の好事例

■「しながわシニアネット」

地域の高齢者ボランティア自ら運営し、高齢者のIT能力の向上、健康増進、都市の寄り合い場所を構築を行う

- 2007年1月、学童保育所跡に「いきいきラボ関ヶ原」を開設、高齢者の社会参加の拠点として「しながわシニアネット」を運営開始。
- 団塊の世代の大量退職に対応し、市民の自由な発想による幅広い活動（パソコン教室、ヨガ教室、カフェ等）の活動拠点を行政が提供。
- 利用者は年間約11000人（平成24年実績）。地域の高齢者の自立と社会参加の場となっている。



出所)しながわシニアネットウェブサイトより



■いきいき健康マージャン広場

孤独になりがちな都市部での高齢者の仲間作りに貢献、認知症予防とたのしみを融合させた活動

- 賭けない・飲まない・吸わないをモットーにした健康マージャン事業を2001年より開始。事業運営は民間に委託。現在700名が登録し、地域の仲間作り、寄り合い所、認知症の予防のために参加している。
- その他にも、品川区の高齢者を対象にした「いきいき」活動として、「いきいきカラオケ広場」や、高齢者と若年層のふれあいの場としての「輪投げの広場」、「いきいきグランドゴルフ教室」等を実施している。



出所)品川区ホームページより

滋賀県東近江市の状況と取組み

特徴1: 地域の伝統的な考え方である「三方よし」の考え方を引き継ぐ医療・介護専門職による勉強会が、地域の中で「顔の見える関係」を作りだしている。

特徴2: 老人大学や地域のボランティアが積極的に参加した地域の取組みが進められている。

特徴3: 市内の愛東地区は、資源循環型社会の先進モデル地域であり、福祉・環境・農業を融合させた取組みを推進している。

■基本情報■

- 東近江市は、古くから近江商人の街として交通の要所に位置した町。
- 人口は約11万6千人。平成に入り二度にわたる7市町の合併で現東近江市となる。
- 複数の市町村が合併して現東近江市となっているため、文化的にも地域の多様性が見られる。
- 東部の山間部は医療介護資源も限定的であるが、国保診療所を中心に、高い在宅看取り率を誇る。
- 西部の琵琶湖に近いエリアは、鉄道が通っており、地方都市の特徴を持つ。



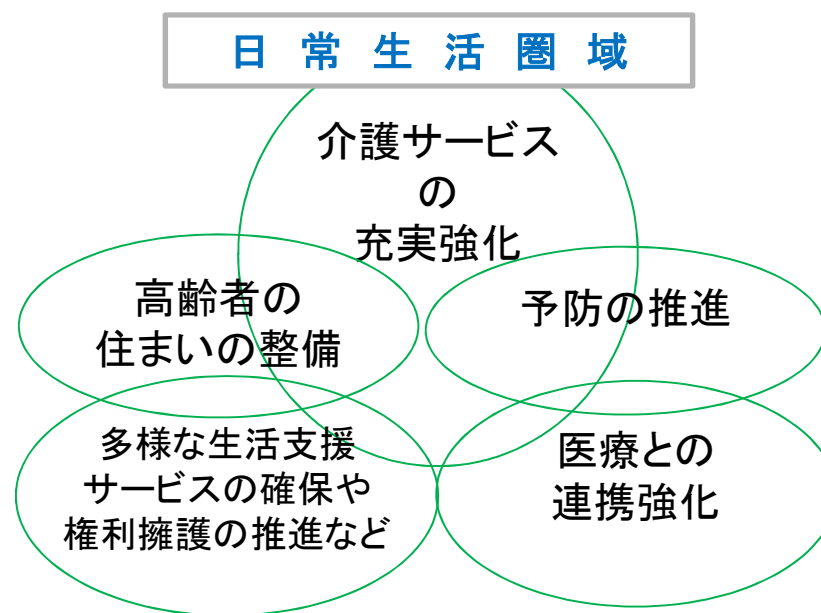
左)かじやの里の新兵衛さん



右)かじや館

撮影)調査団

図: 東近江市の地域包括ケアにおける5つの視点



出所)「東近江市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第5期)」p.88より作成。

滋賀県東近江市の好事例

■あいとうふくしモール

地域住民有志が企画した、福祉を含む農業・環境地域循環社会モデルを行政が支援

- 東近江地域の「地域から医療福祉を考える懇話会」の委員を中心に構築された「福祉モール構想」を具体化。
- 高齢者向けデイサービス、訪問看護、居宅介護支援事業所、障害者の作業所を併設したカフェ、地元産の野菜を使ったレストランなどで構成され、食品、木工品を製作・販売。お金が地域循環する仕組みに貢献。
- 愛東地区は、菜の花エコプロジェクト等の環境課題に長年取組み、持続可能な地域社会作りを行なっている。



写真) あいとうふくしモールホームページより。

■能登川地区「かじや館」

古民家活用福祉拠点を中心に広がる高齢者の活動ネットワーク

- 能登川地区には、古民家を活用した小規模多機能型居宅介護施設「かじやの里の新兵衛さん」(社会福祉協議会)やグループホーム等が古い町並みに溶け込むように立地している。
- 同地域内に設置された「かじや館」はボランティア等の拠点となっており、老人大学(レイカディア大学)の卒業生の協力も得ながら「かじや村民大学」を運営するなど地域高齢者の活動を支援している。
- その他、古民家の営繕へ的高齢者を中心としたボランティア組織の協力など「かじや館」を中心に地域で高齢者の自立とケアを支える体制が構築されつつある。

■三方よし研究会(県との連携)

(東近江地域医療連携ネットワーク)

医療・介護課題の解決を目指し、専門職間の「顔の見える関係」を構築

- 市内の医療・介護の専門職等が情報交換を行うための勉強会として月に一度開催され、すでに71回(平成25年10月現在)を数えている。
- 「患者よし、機関よし、地域よし」の考え方に立脚し、地域の医療・介護課題に取り組む。
- 脳卒中連携パスの構築を起点に、現在は、地域包括ケアシステムの構築を目指している。毎回100人以上の専門職等が参加し、顔の見える関係を構築。
- 現在は、三方よし研究会を参考に、より狭い、より顔の見えるエリアで、地域包括ケアの課題を考える地域が増えつつある。

山梨県北杜市の状況と取組み

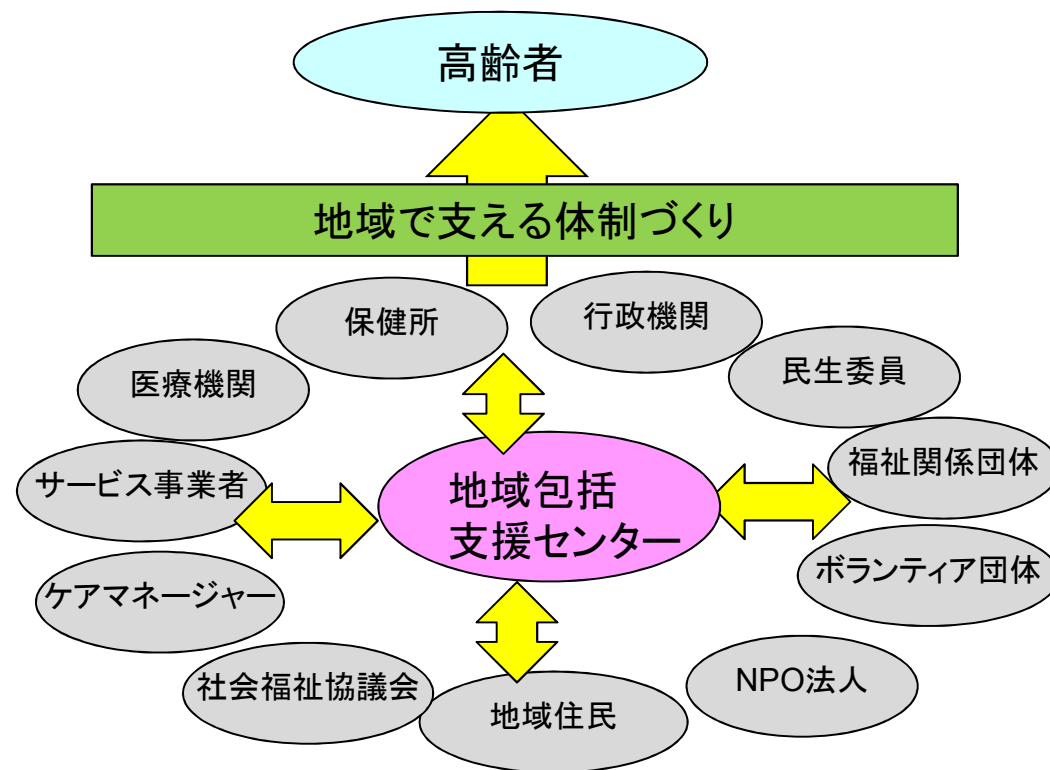
特徴1: 高齢者が地域で自立して暮らせる体制づくりに力点を置き、行政・関係機関・地域・市民が協働しながら高齢者支援の取り組みを実施。

特徴2: 介護予防を最重要視し、「北杜市中長期介護予防プログラム」を実施し、地域包括ケア体制が整備され地域で支える体制づくりを推進。

■ 基本情報 ■

- 北杜市は8つの町が市町村合併してできた市で人口は5万人弱。
- 高齢化率は高い(32.1%:2013年4月1日時点)が、要介護認定率が低い(11.3%:2012年末)。
- 北杜市の高齢者の特徴は、1-2人暮らしが多く、ゆとりがある高齢者と苦しい・やや苦しい高齢者が同率となっている(平成22年度「地域高齢者の生活実態調査」)。
- 地域包括支援センターは平成24年から、直営1か所、3職種11名体制で運営を行っている。

図: 北杜市の地域包括ケア体制



出所) 北杜市『第3次ほくとゆうゆうふれあい計画』p.32より作成。

山梨県北杜市の好事例

■通所型予防サービス事業所「ふれあい牧」

地域の人材のネットワークを活かし、高齢者の
寄り合い場所を構築

- H20年より送迎サービス付きの通所型の高齢者支援活動を実施(週2回)。
- 食事の提供(昼食)、買い物の支援、手工芸、体操等を通じ、高齢者の社交場としての機能や、高齢者の健康増進に貢献。
- 介護予防普及啓発事業の一環として、地域のボランティアの参加の促進を図るための「元気よぼう手帳」も活用。



出所) 北杜市提供

■介護予防・日常生活支援総合事業・地域ケアへの取り組み

幅広く保健・福祉サービスを柔軟に対応させる
ことにより地域包括ケアを実現

- 利用者の視点に立った柔軟な対応と地域活力の向上に向けた取り組み、地域包括ケアの実現に向けた取組を目指し、H18年から事業を開始。直営1か所、3職種11名体制で下記のような幅広いサービスを提供。
 - ✓ 保健サービス(健康教育、健康相談、健康診査、訪問指導)
 - ✓ 福祉サービス(外出支援サービス事業、緊急通報体制等整備事業、老人クラブ育成事業、高齢者の生きがいと健康づくり推進事業、シルバーハウジング生活援助員派遣事業、生活支援ハウス運営事業、老人ホーム入所措置事業、災害時要援護者支援事業等)



出所) 北杜市提供